

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地	
大分リハビリテーション専門学校	平成5年3月12日	藤岡晋三	〒870-8658 大分県大分市千代町3丁目22番地 (電話) 097-535-0201	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地	
学校法人平松学園	昭和29年3月16日	平松大典	〒870-8658 大分県大分市千代町2丁目4番4号 (電話) 097-535-0201	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法士科	平成7年文部大臣告示第146号	-
学科の目的	リハビリテーション医療における高度な専門的知識と技術を修得するとともに、併せて広く社会に通用する人間性豊かな医療専門技術者、理学療法士を育成することを目的とする。			
認定年月日	平成 28 年 2 月 19 日			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習
3年	昼間	3120	1515	225
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数
90人	103	0人	6人	50人
学年	前半期:4月1日～9月30日 後半期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末に期末試験を実施。100点を満点とし60点以上を合格とする。
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月10日 ■春季:3月21日～4月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	進級要件:各学年で修得すべきすべての単位を修得した者とする。 卒業要件:所定の年限在籍し、教育課程に定めるすべての単位を修得し、かつ卒業認定の方針に定める実践的職業能力を修得したと認められる者とする。
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 1)定期的な個人面談の実施 2)出席状況の把握 3)アルバイト等、生活状況の確認、等		課外活動	■課外活動の種類 介護老人保健施設や児童施設等のボランティア 社会福祉協議会からの夏季ボランティア 大分国際車いすマラソン競技補助ボランティア(2年) 身体障害者スポーツ大会の見学およびボランティア 等 ■サークル活動: 無
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 医療分野(病院、クリニック等) 介護分野(通所リハ、通所介護、老人施設等)  ■就職指導内容 2年次より段階的に実施する。2年次では一般的な就職試験の内容説明と先輩の体験談について。3年次ではガイドブック配布と履歴書の書き方、面接指導、自己分析等を実施する。  ■卒業者数 : 32 人 ■就職希望者数 : 32 人 ■就職者数 : 31 人 ■就職率 : 96.8 %  ■卒業者に占める就職者の割合 : 96.8 %  ■その他  (平成 34 年度卒業者に関する 令和5年5月1日 時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)	資格・検定名 種別 受験者数 合格者数 理学療法士 ② 32人 31人
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 令和4年4月1日時点において、在学者98名(令和4年度 入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者98名(令和4年度 卒業者を含む) ■中途退学の主な理由  ■中退防止・中退者支援のための取組 以下のような取組みを実施している。 1)担任による定期・不定期の個人面談 2)毎朝のホームルームの実施、出席状況の把握 3)教員間での情報共有と学生への声掛け 4)期末試験前の学習状況調査の把握 5)保護者を含めた3者面談の実施、等		■中退率 0 %	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 平松特待生制度(スカラシップ30、スカラシップ15)、部活動等減免制度、医療資格特待生制度、家族入学減免制度、県外入学減免制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 令和4年度の給付実績者数 1名			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 受審日2019年11月20日 2020年4月1日～2025年3月31日			
当該学科のホームページ URL	<a href="http://www.hiramatsu.ac.jp/reha">http://www.hiramatsu.ac.jp/reha</a>			

#### (留意事項)

##### 1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

##### 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおいします。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

##### 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野に関し、実践的かつ専門的な職業教育を行い、業界が求める人材を育成するため、企業等と連携し専門家との意見交換を通し、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善工夫等を含む、以下同じ。)に活かすことを目的とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

委員は学校法人平松学園職員ならびに専攻分野に関連する企業や業界団体や職能団体、関連する分野の有識者等より選任する。委員会の意見を参考に次年度の教育の取組み、その基本方針や具体的な編成案を作成する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
藤岡晋三	大分リハビリテーション専門学校 校長	2023年5月31日～2025年5月31日(2年)	
武田 知樹	大分リハビリテーション専門学校 理学療法士科 学科長	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	
大嶋 崇	大分リハビリテーション専門学校 理学療法士科 教務主任	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	
河野 礼治	医療法人恵友会 杵築中央病院	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	①
池部 純政	大分県障害者スポーツ指導者協議会 会長	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	①
梅木 駿太	合同会社Re-FREE	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年、6月と11月を基本とし年2回以上開催する。

(開催日時(昨年度実績))

第1回 令和4年6月21日(火曜日)

第2回 令和4年11月24日(木曜日)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

実践的な職業専門教育において、広く企業等の関係者より編成される教育課程編成委員会は意義のある会議である。

教育課程編成委員会で協議された意見をもとに、理学療法士科職員会議で次年度の教育課程の基本方針案や具体的な編成案を作成する。作成された編成案を大分リハビリテーション専門学校教育会議へ報告し、さらに協議を重ねた上で令和5年度より教育内容を変更した。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習は相応の見識を持つ理学療法士を実習担当者とし、指導体制が整備された企業等で実施する。実習の目的により実習施設の形態は異なる。介護体験実習は介護老人保健施設やデイケア・デイサービス等高齢者の通所施設等で実施する。評価実習は医療施設もしくは介護老人保健施設等の高齢者施設で実施する。総合実習は医療施設で実施する。学生は実習指導者の指導の下、実践的な理学療法過程を学ぶとともに医療職としての倫理観や基本的資質を育む。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

総合実習前に臨床実習指導者会議を開催し前年度実習における課題や経過について報告する。また、企業側より実践的な指導方法を報告する等、実習指導者間の意見交換の場とする。また、実習中に学校教員が施設を訪問し学生及び指導者と意見交換を行う。学生の課題の発見や解決に向けた指導などについて指導者と調整を図る。また、実習終了後は実習指導者より実習報告書の提出を受け学校は成績評価を行う。

### (3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
評価実習Ⅰ	評価実習の前半として、実際の臨床実習施設にて診療参加型の実習形態において筋力検査、関節可動域測定、ADL評価、その他の基礎的評価技術を培う。	大分赤十字病院、介護老人保健施設健寿荘等の医療施設や高齢者施設
評価実習Ⅱ	評価実習の後半として、診療参加型の実習形態において検査・測定から治療プログラムの作成までの一連の過程を経験することで総合的な評価技術および臨床的思考を習得する。	大分中村病院、介護老人保健施設清流荘等の医療施設や高齢者施設
総合実習Ⅰ	総合臨床実習の前半として、担当症例の理学療法経験を通して、評価過程から基本的治療技術までの基本的理学療法を実践的に学ぶ。実習終了後はセミナーにて症例発表を行う。	大分大学医学部附属病院、大分リハビリテーション病院等の医療施設
総合実習Ⅱ	総合臨床実習の後半として、担当症例の理学療法経験を通して、対象者の全人的理解や生活機能分類(ICF)に基づく生活課題の把握、理学療法士としての役割を実践的に学ぶ。	大阪医科大学病院、長崎大学病院等の医療施設

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、職員が現在行っている業務又は将来行うことが予想される業務に関し、責任を持って遂行するために必要な知識・技能等を修得させ、業務の遂行に必要な能力・資質等を高め職員の活性化に資するとともに、本校の業務能率の向上を図ることを目的として研修を行う。あわせて、学校は職員に対する研修の必要性を理解するとともに研修計画を立て、その計画を実施することにより職員に研修を受ける機会を与えることとする。

### (2) 研修等の実績(一部)

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第59回日本リハビリテーション医学学会学術集会」(連携企業等:日本リハビリテーション医学会)

期間:令和4年6月23日(木)~6月25日(土)

内容:リハビリテーション医療における各領域のトピックス

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」(連携企業等:公財)医療研修推進財団)

期間:令和4年8月15日(月)~9月3日(土)

内容:養成校教員および臨床実習指導者に対して教育にかかる高度な知識及び技能を修得させる

#### (3) 研修等の計画(一部)

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第26回大分県理学療法士学会」(連携企業等:大分県理学療法士協会)

期間:令和6年2月11日(日)

内容:理学療法士のキャリアマネージメントについて

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第36回 教育研究大会・教員研修大会」(連携企業等:全国リハビリテーション学校協会)

期間:令和6年8月25日(金)~8月26日(土)

内容:養成施設教員の知識及び技能の修得を目的とする。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

保護者や卒業生、企業等の関係者が参画する委員会の中で、学校運営が適正に行われているかどうか客観的な判定を得る。そのことにより学校運営の課題や改善点を見つけて組織として継続的な改善を図る。また、その結果を公表し開かれた学校を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念や教育目標は定められているか 職業教育における学校の特色は明確か
(2)学校運営	教育目標を達成するための事業計画が定められているか 学校組織や分掌は定められているか 学校運営に必要な会議や委員会は設置されているか
(3)教育活動	カリキュラムは体系的に編成されているか 各科目の位置づけや時間数・単位数は適切か シラバスは適切に策定されているか 成績評価、単位認定の基準は明確に定められているか 進級要件や卒業要件は明確に定められているか 学生による授業評価体制は整備されているか 入学前の学修成果を反映する仕組みがあるか
(4)学修成果	就職率の向上に向けた取組みがなされているか 留年率や退学率の低減に向けた取組みがなされているか 資格取得に向けた取組みがなされているか
(5)学生支援	就職や進学に向けた支援体制は整備されているか 学生相談の支援体制は整備されているか 学生の健康管理体制は整備されているか 保護者と適切に連携しているか 卒業生への支援体制は整備されているか
(6)教育環境	施設・設備は教育上の必要性に合わせ整備されているか 学外実習は教育上の必要性に合わせ確保されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集は適切に行われているか 入学選考は適切に行われているか 学納金は妥当か
(8)財務	中長期的に財務基盤は安定しているか 会計監査は適正に行われているか 財務情報公開の体制があるか
(9)法令等の遵守	個人情報保護のための体制が整備されているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校が有する教育資源を活用した社会貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

保護者や卒業生、企業等の関係者それぞれの立場より学校運営に対する判断や意見を受けることにより、学校組織として継続的によりより学校づくりに活かしていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在			
名 前	所 属	任 期	種 别
河野 礼治	医療法人恵友会 杵築中央病院	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	企業等委員
池部 純政	大分県障害者スポーツ指導者協議会 会長	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	職能団体
梅木 駿太	合同会社Re-FREE	2023年6月1日～2025年5月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表の方法と時期 ホームページ 7月頃

URL:<http://www.hiramatsu.ac.jp/reha>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育目標、カリキュラム、資格取得実績、就職実績、教育活動等について、広く情報提供することにより開かれた学校を目指すとともに、本校への理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、教育目標
(2)各学科等の教育	2. 理学療法士科の概要と教育内容
(3)教職員	3. 教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育、及び実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	7. 学生納付金及び修学支援
(8)学校の財務	8. 学校の財務
(9)学校評価	9. 学校の自己評価・関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校法人平松学園ホームページ URL:<http://www.hiramatsu.ac.jp>

学校法人平松学園概要ホームページ URL:<http://www.hiramatsu.ac.jp/about>

大分リハビリテーション専門学校ホームページ URL:<http://www.hiramatsu.ac.jp/reha>

## 授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法士科)			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			歴史学	高齢者や障がい者がどのように生活してきたかについて、戦後の人々の生活や障がい者の生活や福祉について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			哲学	西洋哲学の基本的知識を学ぶことを通し人間理解の基盤、考え方と力を養う。新しい言葉・概念を身につけ、自分の思考を展開したり、その思考を的確に表現できることを目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育学	教育の意味、教育と人間の成長発達の関わり、人間にとての教育の作用や機能を考える。今日の教育問題を理解する前提として教育制度や公教育、生涯学習についても述べる。	1前	30	2	○			○			○	
○			統計学	卒業後、自分でデータを集めて統計的に検証できるようになることを目指し、仮説検定の考え方と方法を学ぶ。また、臨床研究デザインの基礎についても学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			物理学	生活に必要な力学の基礎や電気についての基本を学ぶ。それを通し、毎日の生活や医療現場で使用している各種機器と電気の基本的・効果的な使い方や危険対策などを理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			英語	基礎的な英語で自分のことや理学療法に関わることを表現できる。理学療法で用いる器具の説明ができる目標とする。その中で、基礎的な英語の語順を理解することを目的とする。	1前	30	2	△	○		○			○	
○			保健体育	生活水準の向上とともに、多くの人々がスポーツに接する機会が増えている。生涯スポーツとして健康の増進や体力の向上を図り、生涯を通じて運動を実践する態度や能力を身につける。	1後	30	2			○	○	○		○	
○			人間関係論	人々と相互に信頼された関係を築くために、お互いの考え方を認知・共感・理解し、有効な関係を築く過程について学修する。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	正常な体の形態と構造を研究する学問が解剖学である。人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学、人体を構成する細胞・組織を顕微鏡使って検索する組織学も解剖学に含まれる。	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	この科目では骨格系、筋系および中枢神経系の理解のもとに、系統別に循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿生殖系、感覚系の構造と機能を理解する。	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ	神経系・運動器系(骨・関節・筋)の構造について知識を高めることを中心に学習する。また学生間で互いに体表から触知し、部位別解剖も理解し、理学療法学を学ぶ基礎とする。	1前	30	1	○			○			○	

○		解剖学Ⅳ	この科目では下肢及び頭頸部の骨、関節構造と運動、筋について学ぶ。講義と併用してグループ活動・演習を通じ主体的に学ぶことを目指す。	1 後	30	1	○			○		○		
○		解剖学演習	この科目では、解剖学Ⅲで学習する運動器系の知識について、模型や動画などを用いることで立体構造として認識し、筋・骨格系の機能について理解を深めることを目的とする。	1 後	30	1	△	○		○		○		
○		生理学Ⅰ	この科目では生体の正常機能を理解することを目標に、身体の最小構成単位である細胞の働きを理解する。特に、細胞の興奮やシナプス伝達について重点的に学習する。	1 前	30	1	○			○		○		
○		生理学Ⅱ	この科目では、消化と吸收、内分泌系など内臓機能および脳神経系、感覚などの中枢神経の制御機能について学び、内部環境、外的環境に対する生体の適応の過程を理解する。	1 後	30	1	○			○		○		
○		生理学演習	生理学で履修した内容の復習及び生理学分野における測定機器を用いた実際の計測を通して、人体の構造や機能について理解を深めることを目標とする。	1 後	30	1	△	○		○		○		
○		基礎運動学Ⅰ	この科目は、主としてバイオメカニクスを扱う。物理現象としての速度、加速度、力、てこやモーメントなど、力学を基礎から学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○		
○		基礎運動学Ⅱ	この科目は、基礎運動学Ⅰを基礎とする科目である。ヒトの正常歩行についてバイオメカニクスの観点を含め理解することを目的とする。また、上下肢の関節の運動構造も学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
○		運動機能構造学	この科目では運動器疾患・障害などの発症機序、機能回復訓練法の解剖学的・運動学的根拠、運動機能評価に必要な解剖学的指標、運動器の機能解剖学について学ぶ。	2 前	30	1	○			○		○		
○		人間発達学	この科目では1)人間発達に関する発達理論、2)周産期、新生児期、乳児期から学童期にかけた子どもの発達過程、3)各時期における障がいとその基礎知識について学ぶ。	1 前	30	1	○			○		○		
○		臨床心理学	この科目では心理アセスメント、知能検査、性格検査、自律訓練法など、臨床心理士と協働していく上で必要とされる臨床心理学の基礎知識についてわかりやすく論じる。	1 後	30	1	○			○		○		
○		病理学概論	この科目では、病気の成り立ちと組織診断、この2つの側面を正しく理解し、かつ、病理学総論ならびに各論の概要を理解することを第一の目標とする。	1 後	30	1	○			○		○		
○		臨床医学Ⅰ	この科目では産科婦人科疾患、耳鼻咽喉科疾患、眼科疾患、皮膚科疾患、腎泌尿器科疾患、救急救命など臨床医学系疾患の種類や概念等的一般的な知識を学ぶ。	2 前	15	1	○			○		○		
○		臨床医学Ⅱ	この科目では脳出血、くも膜下出血、ラクナ梗塞、頭部外傷、頭部打撲など脳神経外科疾患の症状・所見、CTやMRI等脳画像の診かたと、病態を理解するための基本を理解する。	2 後	15	1	○			○		○		
○		臨床医学Ⅲ	地域在住の虚弱高齢者にかかる理学療法士として理解しておくべき知識を修得することを目的とする。	2 前	15	1	○			○		○		

○		臨床医学IV	地域在住の虚弱高齢者にかかる理学療法士として有ておくべき臨床薬理や救急救命に関わる知識・技術を修得することを目的とする。	2 後	15	1	○			○	○		
○		内科学 I	この疾患では心臓の構造と疾患、呼吸器の構造と疾患、腎・泌尿器の構造と疾患、膠原病、アレルギー疾患、免疫不全疾患について学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○		
○		内科学 II	この科目では内科疾患の概要や主要症状、検査所見など基礎的な知識を養うことを目的とし、消化器疾患、肝・胆・脾疾患、血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患等について学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○		
○		整形外科学 I	整形外科の基礎科学や診断に至る考え方、さらに保存的治療、観血的治療について学ぶ。具体的な疾患として、骨関節疾患、関節リウマチ、循環障害、腫瘍、神経筋疾患について学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○		
○		整形外科学 II	この科目では個別部位における整形外科的疾患の診断と治療、具体的には肩関節・肘関節・手・脊椎、股関節・膝関節・骨折・脱臼・脊髄損傷、末梢神経障害等について学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○		
○		神経内科学	この科目では筋萎縮、意識障害、脳神経障害、小脳障害、不随意運動、末梢神経疾患、脱髓性疾患、パーキンソン障害、錐体外路疾患、ミオパチー等の症状、診断、治療について学ぶ。	2 後	30	1	○			○	○		
○		精神医学	この科目では精神障害の分類や概論、神経症性障害・ストレス関連性障害、人格障害、摂食障害、統合失調症、気分障害、てんかんなど、精神医学の基礎を中心に学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○		
○		小児科学	この科目では神経・筋・骨系疾患、新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、内分泌・代謝疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、血液疾患、免疫疾患、膠原病など小児疾患について学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○		
○		老年医学	老化の概念、高齢者医療の基本的な考え方、高齢者に特徴的な疾患等、チーム医療を行う上で理学療法士に必要な老年医学の知識を学ぶ。	2 前	15	1	○			○	○		
○		社会福祉学	この科目では社会福祉制度や保健制度がどのように形成・発展してきたかについて理解する。また、今日の福祉や保健の考え方や仕組みを理解し、障害者支援の在り方を学ぶ。	1 前	15	1	○			○	○		
○		リハビリテーション概論	この科目では医の倫理、障害とその構造、リハビリテーションの過程、ノーマライゼーション等、リハビリテーション医学を学ぶ上での動機付けとなるリハビリテーション医療全体を概観する。	1 後	15	1	○			○	○		
○		理学療法管理学	より質の高い理学療法士を輩出するため、保健、医療、福祉に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うため主に職場管理、理学療法教育、職業倫理について学ぶ。	3 後	2	30	○			○	○		
○		理学療法概論	この科目では、理学療法の法的位置づけや定義、理学療法プロセスなど、理学療法を取り巻く関連知識について総体的に学び、理学療法の具体的なイメージを作ることを目的とする。	1 前	30	2	○			○	○		
○		医療統計学	臨牀上の問題解明や対策を立てる場合、統計学的な知識は不可欠である。この科目では、医療分野で利用する統計解析の修得と統計ソフトの活用方法について演習を交えながら学ぶ。	1 後	30	2	○	△		○	○		

○		理学療法評価学総論	理学療法評価の意義と目的を理解し、実施上の視点ならびに評価の進め方、考え方を理解する。また診療録記に関する意義や方法を理解し、医療面接、バイタルチェックについて学ぶ。	1 前	30	2	○			○	○	
○		卒業研究	理学療法領域における研究の種類、目的、意義を理解し、理学療法関連論文を検索・熟読することで、理学療法学の現状を概観し、研究手法や結果分析方法、考察の視点を修得する。	3 後	60	4	△	○		○	○	
○		地域リハビリテーション学	この科目では地域リハビリテーション及び地域理学療法の概念、介護保険制度と介護サービス、関連職種との連携、介護保険下での理学療法士の役割と業務等について学ぶ。	2 前	15	1	○			○	○	○
○		地域リハビリテーション演習	この科目では実際の事例を通じて、介護保険における介護サービス給付の問題点と問題解決に向けた理学療法士としての取り組み、地域ケア会議などを含めた行政の取り組みを理解する。	2 後	15	1		○		○	○	
○		骨関節評価学Ⅰ	この科目では形態測定と関節可動域検査について学ぶ。各検査に必要な基本事項を理解し、健常者を対象とした形態測定および可動域測定を行えることを目標とする。	1 後	30	1			○	○	○	
○		骨関節評価学Ⅱ	この科目では整形外科的テストや運動器の徒手検査の方法・意義について学ぶ。講義は実技を中心に行い、健常者を対象に、検査・評価が実施できることを目的とする。	2 前	30	1			○	○	○	
○		筋機能評価学Ⅰ	骨格筋の走行や位置、名称などの解剖学的知識や筋生理学の内容を取り扱う。動作能力を評価する上で必要となる、筋機能の知識を整理し習得することを目的とする。	1 後	30	1			○	○	○	
○		筋機能評価学Ⅱ	この科目では筋機能の評価について、筋の触診を交えながら、新・徒手筋力検査法 第9版 (Daniels and Worthingham法)と筋力測定機器を用いた定量的な評価について学ぶ。	2 前	30	1			○	○	○	
○		神経評価学Ⅰ	この科目では脳の機能解剖と障害を同時に学ぶ。評価の意義・注意点・手順について学び、検査方法を習得する。実技を中心とした講義とし、健常者同士で検査が行えることを目的とする。	1 後	30	1			○	○	○	
○		神経評価学Ⅱ	この科目では反射・反応検査、感覺検査、筋緊張検査、協調性検査、脳神経検査などの理学療法評価に必要な諸検査における意義・注意点・手順について学び、検査方法を習得する。	2 前	30	1			○	○	○	
○		呼吸循環評価学	この科目では呼吸・循環器疾患の病態の理解をすすめ、基本的な評価方法や尺度を紹介する。また、臨床実習で呼吸循環系の評価を実施できるよう演習を通して学ぶ。	2 前	30	1			○	○	○	
○		動作分析学	この科目では①動作の観察から分析への過程を整理する②動作分析の目的から対象と解釈までを整理し表現する③各代表疾患の動作分析を経験し記録する、以上3点について学ぶ。	2 後	30	1			○	○	○	
○		疾患別評価学演習Ⅰ	この科目では、整形外科疾患ならびに脳血管疾患の仮想症例をもとに、医療面接から基礎的な検査測定に至る理学療法の臨床プロセスについて、学生グループと教員の演習形式で学ぶ。	2 前	15	1		○		○	○	
○		疾患別評価学演習Ⅱ	この科目では、整形外科疾患ならびに脳血管疾患の仮想症例をもとに、評価結果を基にした基礎的な理学療法の実践について、学生グループと教員の演習形式で学ぶ。	2 後	15	1		○		○	○	

○		運動療法学	この科目では理学療法の基本的な治療技術として、リスク管理や関節可動域運動や筋力増強運動、協調性運動の理論と実際について学ぶ。	2 前	30	1	○		○	○	
○		運動療法学実習	この科目では寝返り～起立・歩行まで高齢者や障害者に対する基本動作の指導・訓練方法を学ぶ。学生間の演習や実技練習を通じ動作指導に関する臨床能力を高めることを目指す。	2 前	30	1		○	○	○	
○		骨関節理学療法学	この科目では下肢骨折、変形性関節症、靭帯損傷、半月板損傷、関節リウマチ、肩関節疾患等、運動器系疾病や障害に対する一連の理学療法プロセス、日常生活指導について学ぶ。	2 後	30	1	○		○	○	
○		骨関節理学療法学実習	運動器の各疾患において治療選択から治療の実施までを模擬的に実施できるようになることを目標とする。また、患者の状態に合わせてリスク管理や患者指導の知識も習得する。	2 後	30	1		○	○	○	
○		神経理学療法学	脳卒中を代表とする種々の神経疾患の病態を学ぶと共に、急性期、回復期、維持期の理学療法についての必要な基本的知識を修得する。	2 後	30	1	○		○	○	
○		神経理学療法学実習	神経理学療法学で学んだ知識をもとに、仮想症例に対する理学療法プログラム立案や実施等の演習や実技を交え、神経障害患者に対する問題解決能力や実践力の修得を目標とする。	2 後	30	1		○	○	○	
○		小児発達理学療法学	この科目では小児リハビリテーションの基本的な考え方を理解することを目的とし、小児特有の評価法や発達の分析方法、対象疾患の特徴と理学療法による介入方法等について学ぶ。	2 後	30	1	○	△	○		○
○		循環代謝理学療法学	この科目では内部障害の病態理解に重点的に、症例を通して学習した知識をより実践に近い形で確認することを目的とする。また患者教育、行動変容の考え方について演習を行う。	2 後	30	1	○	△	○		○
○		呼吸理学療法学	この科目では肺の構造と疾患、各種の検査方法、呼吸器疾患患者の評価、日常生活の工夫と息切れの管理方法の指導、呼吸器疾患患者に対する呼吸リハビリテーションについて学ぶ。	2 後	30	1	○	△	○	○	
○		喀痰吸引法	喀痰吸引は呼吸理学療法を行う理学療法士には重要となる。この科目では標準予防策を始め、喀痰吸引に必要な知識・技術を学ぶ。	2 後	15	1	○	△	○	○	
○		スポーツ理学療法学	競技やポジション別にみられやすい傷害やその原因を理解し、理学療法と競技復帰にむけたトレーニング、予防に向けたコンディショニングなど多岐にわたる対応を学ぶ。	2 後	30	1	○	△	○		○
○		物理療法学	この科目では各物理療法における物理特性および生理学的作用、効果適応を学習する。また、実技演習を通して実践的スキルを身に付けることを目標とする。	1 後	30	1	○		○	○	
○		物理療法学演習	光線や通電療法などの各物理療法に関する知識・技術を学ぶ。また、物理療法に関連するテーマを設定して、実験方法やデータ収集などの研究方法論について演習を行う。	2 前	30	1		○	○	○	
○		日常生活活動学	この科目では日常生活活動と関連項目の関係性を理解することを目的とし、ADL及びQOL、ADL評価の意義、移動補助具の構造や種類、基本的な補助具の調整及び活用方法を学ぶ。	1 前	30	1	○		○	○	

○		日常生活活動学実習	この科目では基本動作の意義と種類、姿勢変換の流れを理解し、安全で適切な動作介助及びADL練習、指導法を修得する。代表的ADL評価方法の目的と意義を理解について学ぶ。	1 後	30	1		○ ○	○			
○		義肢学	切断に至る様々な原因や義足に関する一般的知識を身に付け、患者の障害に応じた義肢が選択でき、さらに対象者に処方された義肢の適合判定について学ぶ。	2 後	30	1	○	△ ○	○			
○		装具学	この科目では上肢装具、体幹装具、下肢装具など、装具全般の基本的な構造と機能を理解し、さらに疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解することを目的とする。	2 後	30	1	○	△ ○	○			
○		高次脳機能障害学	高次脳機能障害の種類やその評価・診断法の習得する。具体的には、CVAや脳外傷等で発症した種々の高次脳機能障害における知識の習得と、更にその評価法を学ぶ。	2 後	15	1	○		○	○		
○		脊髄損傷理学療法学	この科目では頸髄・脊髄損傷による四肢麻痺および対麻痺者の受傷から社会復帰に至るまでのリハビリテーションにおける介入技術・知識について講義・実技を通して、包括的に学習する。	3 前	15	1	○		○	○		
○		摂食嚥下障害学	この科目では嚥下のメカニズムや機能に関わる解剖や生理、RSST、頸部聴診法など嚥下機能の評価・検査、摂食嚥下障害に対する治療・訓練の手順、方法の手技の実践について学ぶ。	3 前	15	1	○		○	○		
○		予防理学療法学	健康増進、障害予防をキーワードとして、国・地方自治体の施策、地域での取り組み等にも触れながら、理学療法士が地域社会で行う予防活動について学習する。	3 前	15	1	○		○	○		
○		徒手理学療法学	関節モビライゼーションと軟部組織モビライゼーションについて、理論や方法論、その手技を用いるための評価方法や目的、選択理由等、治療技術とその適応について学ぶ。	3 前	15	1	○	△ ○		○		
○		救急救命法	理学療法業務にあたる者として応急手当の実践的能力を身につけることは重要である。この科目では救命方法を実習を交えながら実施する。	3 前	15	1	△	○ ○		○ ○		
○		障がい者スポーツ論	この科目では障がい者スポーツ指導者初級指導員の資格取得を目指し、障がい者の余暇活動のスポーツに関わり、障がい者の生活の一部を支援する経験を実践している。	1 前	30	2	△	○ ○		○ ○		
○		生活環境論	①人間工学の基礎知識を理解し、人に優しい環境について説明できるようになる。 ②環境調整の基礎知識を理解し、障害に応じた処方・チェックアウト・助言ができるようになる。	2 前	30	2	○		○	○		
○		見学実習	職業像を明確にするため、実際の理学療法業務を見学することを目的とする。また、多職種との連携等を学ぶことにより理学療法士として必要なスキルを学ぶ。	1 前	45	1		○ ○	○ ○	○ ○		
○		訪問通所リハ実習	介護老人保健施設や介護老人福祉施設等で、医療や福祉に携わる人・社会人としての適性を育成することを目的とし、援助者としての立場を経験する。	1 後	45	1		○ ○	○ ○	○ ○		
○		評価実習 I	評価実習の前半として、実際の臨床実習施設にて診療参加型の実習形態において筋力検査、関節可動域測定、ADL評価、その他の基礎的評価技術を培う。	2 前	90	2		○ ○	○ ○	○ ○		

○		評価実習 II	評価実習の後半として、診療参加型の実習形態において検査・測定から治療プログラムの作成までの一連の過程を経験することで総合的な評価技術および臨床的思考を習得する。	2 後	90	2			○	○	○	○	○
○		総合実習 I	総合臨床実習の前半として、担当症例の理学療法経験を通して、評価過程から基本的治療技術までの基本的理学療法を実践的に学ぶ。実習終了後はセミナーにて症例発表を行う。	3 前	360	8			○	○	○	○	○
○		総合実習 II	総合臨床実習の後半として、担当症例の理学療法経験を通して、対象者の全人的理解や生活機能分類(ICF)に基づく生活課題の把握、理学療法士としての役割を実践的に学ぶ。	3 前	360	8			○	○	○	○	○
合計			85 科目	3120 単位時間( 119 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の授業回数の2/3以上出席した者に単位認定試験の受験資格を認め る。単位認定試験でC評定（60点以上）の者に単位を認定する。卒業は所定の年 限在籍し、教育課程に定めるすべての単位を修得し、かつ卒業認定の方針に定め る実践的職業能力を修得したと認められる者とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合  
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。